

平成24年度「みえの現場・すごいやんかトーク」(熊野市)の概要

1月26日(土)に熊野市の記念通り商店街「いこらい広場」で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、商店街で地域活性化に取り組む皆さん7名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 平成2年の記念通り商店街振興組合設立時には、77店舗あったが、現在は28店舗に減少している。
- 平成14年7月に商店街で拠点となる「いこらい広場」を設置し、物産販売を行っている。毎月第4日曜日に「いこらい市」を開催しており、今年で11年目を迎えた。平成24年12月の「いこらい市」は、初開催の「きのもと師走さんま祭」として開催したが、名古屋のテレビに取り上げられたこともあり、名古屋など市外か

からも多くのお客さんが来てくれて嬉しかった。平成 25 年に高速も延伸されることから、市外からも集客できるイベントをやっていききたい。

高速延伸を見据え商店街を PR し、地域を活性化するため、ふるさと雇用の補助金を活用し、「新姫くずもち」、「熊野地鶏とラー油の出会い」などの新商品を開発し、「いこらい広場」や道の駅で販売している。「新姫くずもち」の評判がいい。また、現在「新姫羊かん」を開発中だ。

旧暦の 3 月である 3 月 3 日から 4 月 3 日まで熊野市内でおひなさんを飾って雛めぐりを開催している。今年は、「美し国おこし・三重」に協力いただき、のぼりを購入できた。平成 23 年に雛めぐりを始めて以降、年々おひなさんを飾る軒数、また参加いただく方が増えているのが嬉しい。現在では、お雛さんを飾る「飾り隊」、片付ける「片づけ隊」が出来ている。

紀伊半島の太鼓の団体が集まるイベント「響鼓(きょうこ)in 熊野」は、平成 9 年の開始以降しばらくは、記念通り商店街振興組合が企画し開催していたが、現在は商店街以外の方もメンバーとなり、実行委員会を組織し開催している。最近では太鼓の参加団体もこのイベントを目標に練習してくれているし、市民の方も自発的に協力してくれるようになったことは、大変嬉しい。

Q 今後、活動していくうえでの課題や、その課題を解決するために行政や企業などに望むことは？

平成 23 年度は、県の「頑張る商店街応援隊事業」でスタッフによる人的支援が有り難かった。平成 24 年度は、この事業が無くなったが、出来たらこういう人的に支援いただく事業を実施していただきたい。

熊野のものをサンプル品として横浜等都会に送っても、実際に大量注文に対応できないことがある。大量の注文にも対応できるようにしていただきたい。

清水市で商工会議所、市、県が連携して商店街の後継者を公募し、いいお店をなくさないようにという事業が「ガイアの夜明け」で紹介されていた。東京等から何十人もの応募があり、6 ヶ月間実際働いてもらい、最終的には、経営者が後継者を決定していた。個人では、なかなか、後継者を見つけられないので、いいお店をなくさないように少しでもサポートしていただきたい。

以前は、この地区に公共機関や金融機関が集中していたが移転してしまっているため、民間の投資を促すような施策、例えば人が集まる核となる施設を作ってほしい。例えば、熊野市が古民家を購入する予定があることに大いに期待しているし、熊野商工会議所が津波の避難所を兼ねた施設に改修するなどが考えられる。

スーパーオークワが昨年未で撤退し、跡地の有効活用が問題となっており、市、商工会議所で相談、取組を行っているが決定していない。

市や県の町づくりの会議に出ても中心になっているのは、同じメンバーだ。女性や若い世代のスタッフが少ないので増やしていきたいが、どうしたらいいかわからない状況だ。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

さんま祭は、気仙沼や東京が有名だが、熊野のさんま祭も有名にしないと。もともと古文書によるとさんま漁として漁業を始めたのは、熊野が起源らしい。

「いこらい市」を毎月開催して11年継続していることは、すごいこと。

緊急雇用事業の基金が補正により積み増しされるので、そこで「頑張る商店街応援事業」のような事業をたてるのかを確認したい。

「新姫くずもち」は、さわやか。羊かんは、最後にさっぱりくる。新姫関連では、東京駅前の丸ビルで新姫サワー、新姫を絞ったドレッシングが人気。新姫は種が多く、子宝に絡めて売ればいいのにとの声もいただいた。健康志向にも合っている。三重の産品を売り込みに行った際に、「いいものだけど、ロットが出せないのが難しい」とは我々も言われる。ロットを増やすこともさることながら、ロットが少なくても対応できて儲けられるようルートに支援していくことも考えられる。東紀州地域だけの適用であるが、少ロットでも儲けられるよう流通支援する予算措置を昨年度から講じている。

志摩市が南部地域活性化基金を活用して、漁師塾として全国から漁師になりたい方を募集し、半年間塾を実施する。このような基金を使ってできないかを熊野県民センターが皆さんに相談しに行く。

町づくりが楽しそうと思わせることや情報提供が必要かもしれない。全国学習状況調査で三重県が全国平均より相当上回っている項目は、地域の行事に参加しているという点だ。全国平均が50%位のところ65%であるが、大学生になると14%に下がる。若い人をどう引き込むかを企画課で検討している。

全国の商店街を見てきたが、何が駄目かということも分からず苦しんでいる商店街もあるなかで、ここでは課題もみえており、どう解消していこうかと前に向いている。すぐ実現は出来ないが、皆さんと一緒に一つ一つ実現出来るように頑張っていきたい。



【商店街で地域活性化に取り組む皆さんとは】

熊野市の記念通り及び本町通りで商店街を通じて地域の活性化に取り組まれています。

記念通り商店街振興組合では、「新姫くずもち」など熊野の素材を使った商品開発を行い、「いこらい広場」で販売しています。また、本町通りでは、500円以上買い物された方に古道ぜんざいを振舞う「ぜんざい市の会」が5年以上続くなど地域の活性化に取り組まれています。